

全体の概要

本校正答率は、県とほぼ同じで、「十分達成」に近い値である。領域別では、「読む」以外は県平均より上で、特に「漢字の書き」は県を大きく上回っている。特に「漢字の読み書き」及び「話す・聞く」は「十分達成」の域に入っている。また、問題形式では「短答式」の問題が前回に引き続き、「十分達成」である。「要努力」の項目は領域別ではなかった。無回答率も県を下回っており、記述式の問題に対しても何とかして答えようとする意欲が窺える。前回同様「読む」領域の力をつけることが課題である。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
話すこと・聞くこと	<p>本校正答率は、県をやや上回っている。特に「相手や場に応じた言葉遣いなどに気をつけて話す」「互いの発言を検討して自分の考えを広げる」問題は県を大きく上回っているが、他の問題は県とほぼ同じである。話し合い活動は常時行っているが、効果的な話の構成や展開を意識させて、話したり聞いたりする指導を充実させる必要がある。</p>	<p>グループ活動を取り入れた授業を今後も効果的に仕組んでいく。その際、グループ内の話し合いでも、全体での発表の場でも、どのように話せば相手に伝えられるかを考えさせ、相手を意識した話の構成や展開の指導を行う。</p>
書くこと	<p>本校正答率は、県をやや上回っているが、「十分達成」には至っていない。「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように工夫して書く」は正答率が大きく上回っているが、「材料を整理して文章を構成する」「根拠を明らかにして書く」ことができていない。条件作文については、正答率が上がり、条件を意識し、見落とさずに書けるようにはなっている。</p>	<p>指定された字数に合わせて書くことができる生徒は多いが、その内容、特に構成や説得力に課題が見える。そのため、書く指導に当たっては、「主題」「材料」「構成」をしっかりと生徒にもたせ、「分析力」「思考力」「構成力」「文章表現力」等、個別に段階を追って、それぞれの能力の育成を図る。</p>
読むこと	<p>本校正答率は、県とほぼ同じである。特に、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えたりすることは、十分達成に達している。しかし、文章の構成や展開について自分の考えをもつことは苦手になっている。短答式や記述式の正答率が高く、選択式の問題が、的確な答えを選択できていない。</p>	<p>説明的文章における正確な情報の取り出し、文学的文章における登場人物の心情や情景の把握のために、「書く」活動を通して、自分の考えを整理させ、まとめさせる指導を回数多く行う。例えば、登場人物へのインタビュー、リライト、副題をつけるなど、教材に合わせて効果的な「書く」活動を仕組みながら、読む力を培わせていく。</p>
言語事項	<p>本校正答率は、県とほぼ同じである。特に、漢字の読み書きや歴史的仮名遣いは「十分達成」の域である。ただ、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題や文法(主語述語の呼応)の正答率がいずれも低く、語彙力の不足とともに言葉を知ってはいるが使い慣れていない傾向が読み取れる。</p>	<p>引き続き、語句や漢字等、言語についての習得の徹底と反復学習により、定着を図りたい。今後も継続して宿題と漢字テストを連動させ、生徒の意欲を喚起する。文法や古典の知識も、時間がたつと理解していた内容を忘れてしまうので、適宜振り返りの時間を作っていく。慣用句やことわざ、四字熟語等も授業で反復学習を行い、語彙力を上げるように仕組む。</p>

全体の概要

- 全体の正答率は県平均をやや上回っている。
- 到達度別平均正答率では、「おおむね」は県平均より大きく上回っている。
- 観点別正答率は、「技能」は県平均よりやや上回っているが、「見方や考え方」「知識・理解」は県平均とほぼ同じである。
- 内容・領域ごとの正答率は県平均と比べてみると、「資料の活用」は大きく上回り、「数と式」「図形」はやや上回っているが、「関数」ではやや下回る結果である。
- 無回答率は県平均より低く、最後まで何とか解こうとする意欲が感じられる。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
見方や考え方	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <p>11問中、県正答率に届かなかったのは5問である。その中でも差が大きかった問いは、「数と式」の領域で「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現したりすることができるか」という問いである。</p> <p>「資料の活用」の領域については定期テストなどに意識して出題していくことで生徒に繰り返し復習させていった結果、正答率が大きく上回った。</p>	<p>「見方や考え方」は、思考力を問う問題であるため難易度が高い問題が多い。長い文章を読みながら問題解決に必要な情報を取り出すことが重要になってくる。授業において必要な情報に○で囲ませたり、下線を引かせたりしながら丁寧に取り扱いしていく。また、図形における論証では、長い文章を書かなければならないため、面倒がる生徒が多い。そのため文章で書く指導を丁寧に行っていく。</p>
技能	<p>正答率は県平均よりやや上回っている。</p> <p>23問中、県正答率に届かなかったのは8問である。その中でも差が大きかった問いは、「関数」の領域で「比例の式について、xの値の増加に伴うyの増加量を求めることができるか」と「反比例のグラフ上の点の座標から、xとyの関係を式で表すことができるか」という問いである。</p> <p>「数と式」の領域の計算問題では授業の最初に計算小テストを行い、単元が終わったところで中テストを繰り返し行っていた結果、正答率が上回った。</p>	<p>「技能」に関わる問題としては計算問題が多い。「数と式」の計算問題は、小テストや中テストなどで生徒に繰り返し復習させていき、定期テストなどにも意識して出題していくことで、基本的な技能を定着させていく。また、「関数」の領域はすでに学習した内容を週末課題として取り組ませ、繰り返し復習していく。</p>
知識・理解	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <p>17問中、県正答率に届かなかったのは、8問である。その中でも差が大きかった問いは、「関数」の領域で「一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解しているか」と「一次関数$y=ax+b$について、変化の割合が一定でaの値に等しいことを理解しているか」という問いである。基本的な問題であるが、授業で学習して長い時間がたっているため誤答が多かったように思われる。</p>	<p>用語や基本となる知識の習得については、繰り返し復習させる必要がある。授業では教科書に下線を引かせるなど丁寧に扱い、定期テストなどに意識して出題していくことで、生徒に理解させていく。また、すでに学習した内容を週末課題として取り組ませ、繰り返し復習していく。</p>

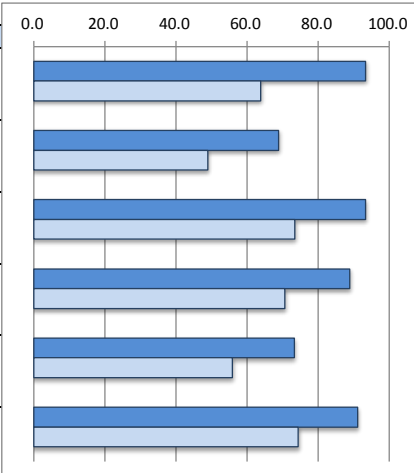
◆平成28年度佐賀県学習状況調査<<9年生 意識調査>> 小城市立小中一貫校芦刈観瀨校

全体の概要

半数近くの項目で県平均を上回っている。学校生活や友人関係や学習の規律面での好反応が多く、自己肯定感も高い。また、言語活動に対して良好な反応が多く、校内研究で取り組んできた成果が表れてきていると思われる。

①県と比較して数値が高い項目

	項目	差	本校	県
54	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくおこなっていたと思う。	29.6	93.4	63.8
34	今住んでいる地域の行事に参加している。	19.9	68.9	49.0
33	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。	19.9	93.3	73.4
50	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの活動に取り組んでいたと思う。	18.3	88.9	70.6
30	学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている。	17.4	73.3	55.9
32	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。	16.7	91.1	74.4



分析

上記の項目から、先生に対して肯定的な印象をもち、授業に対しても意欲的に参加している様子が読み取れる。

また、上記以外の項目でも授業に対する反応はほとんどが県平均を大きく上回り、考える活動、話し合う活動、発表する活動に対してしっかりと取り組んでいることがうかがえる。

さらに、学校へ行くことが楽しいと感じている生徒は90%を超え、友達に会うのが楽しいと答えた生徒は97.7%であり、居心地の良い環境が作られていると思われる。

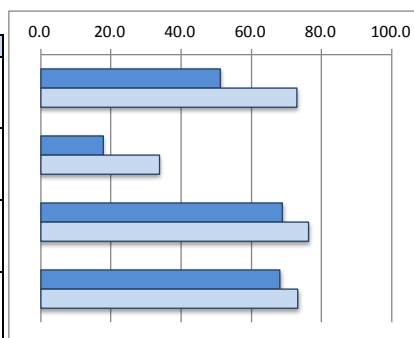
取り組み

小中一貫校になって初めての中学部の学年が本学年であり、意識調査の結果からこの2年間の取り組みが効果的であったことが読み取れる。

今後、さらに学校生活や授業への取り組みが充実していけるように、学習指導の工夫や改善に取り組んでいきたい。

②県と比較して数値が低い項目

	項目	差	本校	県
64	読書は好きだ。	-21.8	51.1	72.9
23	学校の授業の予習をしている。	-16.0	17.8	33.8
45	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普通の生活や社会に出たときに役に立つ。	-7.4	68.8	76.2
25	予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している。	-5.1	68.1	73.2



分析

家庭学習で、予習と教科書を使った学習が定着していない生徒が多い。

復習をしている生徒は県平均を10ポイント以上上回っているため、学習に対する取り組みに偏りが見られる。

また、個々の教科は好きだが、社会に出たときに役に立つと感じている生徒は多くない。

取り組み

教科による特性はあると思われるが、予習・復習のバランスや教科書を使った学習などをもう少し丁寧に指導していく必要があると思われる。

また、学習している教科と実社会との関連をもっと積極的に意識付けしていく必要があると思われる。